

## 神を懐胎した大地

牧師 山本 護

旅先の骨董屋で「受胎告知」のアイコン(ロシア正教の聖画)を見かけ、手に取って眺めていると、背後から「ほほうっ、これはお目が高い」の声がして、まんまと乗せられてしまいました。寒さが凍みてくる待降節。受胎告知の記述を読むと、建物まで朽ちかけていた骨董屋とあの寂寥とした町を思い出す。アイコンの裏面には作者のサインがあり、これがお宝なのか、くわせ物なのか、まだ確かめられないでいます。

「天使入りテ之ニ謂ヘリ、恩寵ヲ蒙レル者、慶ベヨ、主ハ爾ト偕ニス、爾ハ女ノ中ニ祝福セラレタリ(ルカニ因ル聖福音 1:28)」。「天使之ニ謂ヘリ、マリヤ、懼ルル勿レ、蓋爾ハ神ノ前ニ恩寵ヲ獲タリ(1:30)」。

この素朴なアイコンを見つめていると、マリアに語りかける天使カブリエルの声が、ニコライ訳の古い日本語で聞こえて来ます。

『悪霊(ドフトエフスキー)』のスタヴローギンだったかシャートフだかが言った。「[神を懐胎した] 民族、それこそロシア民族だ」と。かつて青年たちによく読まれたこの時代のロシア文学。こうした言葉から大づかみに知ったことは、ロシアの「キリスト」はその大地と不可分であるということでした。



山野の落葉を貼り付けた八ヶ岳教会のオリジナル・クリスマスカード。今年は教会カフェに集った皆さんが 300 枚ほど作ってくれました。落葉付カードは開拓伝道初期から続いているものですが、当初は和紙に面相筆で一枚ずつ手書きしていたので 30 枚くらいがせいぜいで、それで間に合っていました。

「神を懐胎した」アイコンを、クリスマスカードに用いた落葉の「大地」に置いてみた。すると自然に調和し、アイコンも落葉も何だか嬉しそうなので、しばらくそのままにしておきました。その日は北風が強く、すぐに受胎告知は落葉に埋もれ、「懼ルル勿レ、蓋爾ハ神ノ前ニ恩寵ヲ獲タリ」の声だけが聞こえています。

受胎告知のアイコン、自分の場へ帰りたがっている気がします。でもあの頃でさえ朽ちていた骨董屋はもうなく、骨董品のような店主もいないでしょう。また故郷のロシアはハイテク戦争のさなかで、その大地はかつてのように「神を懐胎した」沃野とはいえない。

だからアイコンの天使よ、落葉の中からマリアの受胎を格調ある日本語で告知して下さい。「天使入りテ之ニ謂ヘリ、恩寵ヲ蒙レル者、慶ベヨ、主ハ爾ト偕ニス」。私たちは冷たい八ヶ岳風(おろし)の中にその声を聴きます。Ω